

「本学教育の見直しと再構築に向けて」

総合教育センター長 矢田貝真一



平成 21 年度のFD研修会〔テーマ：授業改善の推進と教養教育の在り方〕とSD研修会〔目的と到達目標：総合教育センターの活動とFD・SDの取組を理解し、その必要性を説明できるようになり、行動が変わる〕が8月21日（金）に行われました。一人ひとりの学生につけていく本学としての短期大学士力の内容と、その学びの質をどのように保証していくのかということを明らかにしていくために、どちらもたいへん有意義な研修とすることができました。

特にFD研修会では、FDと授業改善に関する動向の報告をセンターから行った後に、教養教育の在り方についての討議をすべての教員で行いました。ここでの意見をLS(学習支援)専門部会で集約し、本学としての教養教育の位置づけ・目標・授業科目・充実させるための取組等にまとめたものが『教養教育推進の方針』として学長の承認を得ました。今後はこの方針にしたがい、「総合教養演習」を具体的な在り方を教務委員会で検討・審議して来年度からリニューアルして開講するなど、「教養ミニトーク」や「Q&A タイム」等の活用ともあわせて、パワーアップした本学の教養教育がスタートする予定となっています。本学教育の重要な柱の一つである教養教育を進展させるためにも、この方針を改めてすべての教職員のみなさまがご確認いただきますようお願いいたします。

ところで、中央教育審議会(中教審)答申「学士課程教育の構築に向けて」(H20.12)、私立短期大学協会「短期大学教育の再構築を目指して」(H21.1)、中教審大学分科会「中長期的な大学教育の在り方に関する第一次報告」(H21.6)・「同第二次報告」(H21.8)など今後の大学教育の方向や在り方に関する指針が、このところ次々と提示されてきています。

そこでは学生につけていく短期大学士力(=この内容こそが本学のミッションであるといえます)とともに、学びの質を保証していくための組織、教育課程や取組、人的・物的教育環境などを再構築し、これを社会的にも総合的に明らかにすることが強く求められています。そのため、新設された総合教育センターでは専門部会を中心として本学の教育全般にわたる「見直し」を積極的に行い、学長を中心のみなさまとともに本学教育の再構築を目指しております。こうした社会的な動向をご理解いただき、今後ともご鞭撻とご協力をたまわりますよう、よろしくをお願いいたします。



平成 21 年 7 月～10 月までの

センター活動状況の報告

【 総合教育センター 】

■教養教育について

8月のFD研修会での各グループ討論と全教員の報告書に基づいたLS部会のまとめ案を受け、センターで検討した。そして「5分間トーク」を発展させた「教養ミニトーク」や学生の質問力向上をめざす「Q&A タイム」の取組の導入なども含め、本学の今後の教養教育の方向性と内容を示す『教養教育推進の方針』をまとめた。学長の承認を受けたこの方針に基づき、本学教養教育の柱となる「総合教養演習」の具体的内容や実施方法などを検討し、平成 22 年度開始に向け準備を進めていく。

■授業評価について

従来から行われていた「学生による授業評価」の改善を目的として実施されたアンケートをFD専門部会から委託され、データの入力・集計を行った。学科ごとの特徴や学年による違いなどを明らかにし、学生と教員の意識の違いもみられるよう、様々な切り口からの図表を作成した。今後はこの結果をFD専門部会とともに分析し、新たな授業評価の内容を検討する。

■入学前教育と初年次教育について

現在、LS部会とともに各学科の入学前課題を把握し、入学前教育を行う目的や具体的な実施内容の見直しと文章化を進めている。これをもとに今後、高校からの要望なども取り入れながら、全学的な入学前教育を整備していく。また、学生のコミュニケーション能力を高めるための外部プログラムの導入なども含めた、来年度からの初年次教育についても検討している。

(文責：茂木七香)



【各専門部会】

■FD 専門部会

- ① 学生及び教員を対象とした「授業と授業評価に関する意識調査」のデータ集計が現在行われており、これを基にこれまでの「学生による授業評価」の内容を調整し、後期実施に向け進めている。
- ② 平成21年度FD研修会における全教員から提出された「個人報告書」の纏めを終え、フィードバックについて検討を行っている。
- ③ 平成21年度後期授業交流会に向け、実施要領について検討を進めている。
- ④ 自己点検・評価委員会より、平成21年度からFD専門部会が「教育環境調査」および「満足度調査」を担当することとなり、内容的に見直した上で実施する。
- ⑤ 「学生による授業評価」結果の学生へのフィードバックについて検討を行っている。

(部会長:岩田千鶴子)

■GP 専門部会

今年度のGP専門部会に課せられたおもな役割は以下の2点であった。

- 1) 昨年度選定された「教育GP」の充実と組織的取り組みの推進
- 2) 新しい短期大学教育をめざす教育プログラムの開発と推進・実施に関すること。

4月から10月まで5回の部会を開き、「教育GP」に関する各学科、各月の取り組みの調整とGPの内容紹介(GP通信第9号発行、9月12日の西濃地域全域への教育GPチラシ新聞折込)を中心に行ってきた。特に新聞折込チラシについては、初めての試みであり、理解してもらいやすい内容づくりに苦心した。来年1月に行われる、平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」で取り組みを紹介する事例発表とポスターセッションに参加することになっており、今後はその準備を中心に取り組むことになる。

(部会長:役田 亨)

■LS(学習支援)専門部会

7月の第5回LS部会では従来行ってきた「5分間トーク」について各学科教員の意見を基に話し合わせ、いろいろな意見が出された。

9月の第6回LS部会ではセンター長から「教養教育のとらえ方」と「総合教養演習のあり方」についての検討案が出された。教養教育の各学科目標については、各学科長に依頼をした。

又、リメディアル教育については単位の対象とせず、教養教育として高等教育にふさわしい内容をめざし、総合教養演習の実施は各学科の教育目標の目的に基づいて考え、検討を行った。「5分間トーク」について今後の在り方を再度各学科で検討し、学長の意見をふまえて『教養教育推進の方針』としてまとめた。

10月の第7回LS部会では、各学科の教養教育の目標を確認した。又、早急に入学前課題について、全学共通、各学科で入学前課題を持ち寄り討議し、全学共通課題を含めて入学前教育と初年次教育の充実をめざす案を学長に答申し、これをまとめていく予定である。

(部会長:加納秀美)

本学教育の誇れるところ 改善すべきところ ②

本学には目的や専門性の異なる4つの学科があり、各科で行われている授業は、実にバラエティに富んだものである。学外発表などで他科の成果を目にすると、それぞれの分野で専門性を高める教育が行われていることを実感する。しかし残念ながら、授業内・外で他学科の教員や学生と交流する機会があまりないのである。折角の豊かな財産(施設・人・組織など)を、学科内だけで活用するのは勿体ない。学科の枠を越えて、学生同士・教員同士・学生と教員が、関わりあい、ともに同じ目標に向かって進めるような活動に、授業でも課外でもよいので取り組んでいきたい

(N)

